

『 みんなちがって、みんないい 』

こども保育科 3年

大橋 逸紗 後藤 早麗 御村 梨奈 森田 芽依 安田 朱里

【はじめに】

近年、保育現場でも多様性を求められる場面が増えてきている。実習に行った園でも障がいを持つ子どもと接する機会が多くあり、保育者として子どもたちに自分とは異なる特徴・特性を持つ人がいることを知ってもらうために何かできることはないかと考えた。

【連携企業】

特定非営利活動法人 安城まちの学校
企業・団体 CSR 事業等支援事業、学校教育支援事業、不登校児童生徒保護者支援事業、小学生体験学習講座・行事企画運営事業を行っている法人。中でも、「あとリエクレッシェンド」は、障がいのある人が絵(アート)を通して自分を表現し元気になる場所の一つを目指している。

【方法】

少しでも楽しみながら多様性についての関心を持ってほしいという思いから、あとリエクレッシェンドで描かれた絵と実習先の園児が描いた絵を使ってオリジナルストーリーの紙芝居を作成した。

タイトル『どうして?』

紙芝居制作にあたり工夫した点は、以下の通りである。

- ・子どもたちの「どうして?」という疑問をもとにストーリーを考えた
- ・難しい言葉はわかりやすい表現にした
- ・絵を切り貼りして1つの作品にした

- ・絵がはっきり見えるように縁取りをした

制作にあたり、幼稚園児に読み聞かせをした反応の確認や現場の先生からの意見をいただき、内容やイラストをブラッシュアップした。

【結果】

- ・読み聞かせをした子どもたちの反応としては、次に出てくる登場人物はどんな人だろうとワクワクする姿がみられた
- ・子どもたちの絵があるため親しみやすいという声があった
- ・出てきたマークについて見たことがあるという声があった

【考察】

私たちは保育者として心の土台となる幼少期に関わる中で、様々な物事について知る機会や経験ができるような環境を作っていく必要がある。多様性を理解するためには、一人ひとりの存在を受け入れていけるような「想像力」が必要だと考える。紙芝居を読んで、様々な登場人物と出会うストーリーからその存在を知り、少しでもお互いが手を取り支え合える社会になれば嬉しい。

指導教員：荒川 琴未 稲垣佑夏里